



2026年度

廿日市高齢者ケアセンター
事業計画

社会福祉法人
西中国キリスト教社会事業団
廿日市高齢者ケアセンター

【運営基本方針(理念)】

1. 社会福祉の方法及び技術に則った専門的福祉サービスを推進する。
2. 地域の関係機関、団体との連携を図りつつ、在宅福祉・地域福祉を進める。
3. 職員の資質向上に努めると共に、働きやすい職場作りに努めていく。
4. 建設の趣旨に則り、被爆体験の継承に努めていく。

廿日市高齢者ケアセンター 2026年度 事業計画 《構成》

1. 2026年度の取り組みについて
2. 2026年度重点課題
3. 2026年度組織体制
4. 施設福祉サービス部 重点課題
 - (1) 特養サービス課 重点課題
 - ① ケア係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - ② 医務係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - ③ ショートステイ係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - (2) 施設福祉サービス推進課 重点課題
 - ① 施設福祉相談係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - ② ケアハウス係 …事業計画・実践計画・研修計画
5. 在宅福祉サービス部 重点課題
 - (1) デイサービス課 重点課題
 - ① デイサービス一般係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - ② サテライトデイサービス係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - ③ 認知症デイサービス係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - (2) 居宅・訪問サービス課 重点課題
 - ① 居宅介護支援係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - ② 訪問介護係 …事業計画・実践計画・研修計画
 - (3) 子ども福祉推進室 重点課題
 - ① 子ども福祉係 …事業計画・実践計画・研修計画
6. 福祉総務部 重点課題
 - (1) 福祉総務課 重点課題
 - ① 総務事務係 …事業計画・実践計画
 - ② 栄養係 …事業計画・実践計画
 - ③ 地域福祉係 …事業計画・実践計画・主な行事等
7. 地域包括支援センター事業計画

清鈴園・廿日市高齢者ケアセンター

2024年度からの事業計画(3か年計画)について

2024 年作成時
から内容に変更
なし

廿日市市における両施設の取り組みは、特別養護老人ホーム清鈴園は開設から 52 年、廿日市高齢者ケアセンターは 29 年を迎えようとしている。(2024 年 3 月現在)

その間、福祉事業を取り巻く環境は大きく変化してきている。介護保険制度が創設され 23 年が経過し、高齢者福祉事業に民間が参入し、さまざまな工夫を凝らしたサービスを展開しており、社会福祉法人も企業体としての競争力が益々求められている。また、人口減少・少子高齢化・世帯構成の変化などにより、地域の福祉ニーズは複雑化してきており、両施設が社会福祉法人として、地域の社会資源として、地域共生社会の一員として様々な福祉ニーズに対応していくことが求められている。

さらには、新興感染症や災害、介護人材の不足など、事業運営のリスクはますます高まっている。

このような状況下においても両施設がこの地域において安心のシンボルとして機能し続けるために、以下の重点課題を 3 年間で段階的に取り組むこととする。

2024～2026年度 重点課題

- I. 介護報酬改定を踏まえ適正かつ安定した事業運営
- II. 自立支援・重度化防止・QOL 向上
- III. 人材育成・働き甲斐の充実
- IV. 地域包括ケアシステム・地域共生社会の構築に向けた一翼を担う
- V. 被爆体験の継承

2024 年作成時
から内容に変更
なし

2026年度事業計画について

2024年から2年間の取り組みを踏まえ、現状の課題を整理しています。記載内容を各部署の事業計画にも反映させてください。

3年計画の最終年度目となる2026年度は、ここまでの2か年で、介護報酬改定を踏まえた安定した事業運営となり、QOL向上等に資する取り組みが充実し、人材育成が計画的に取り組まれると同時に、職員の働き甲斐の充実を目指して取り組んできた。

しかし、部門により異なるものの、稼働率の低迷や物価高騰、人件費上昇の影響もあり、安定した事業運営には至っていない。また、職員の退職に伴う補充も十分には出来ていない状況が続いており、職員不足から業務の見直しも迫られている。その為、職員の計画的な個人面談の機会も十分には持てず、個別目標や課題に応じた人材育成も実践できていない。

一方、地域の社会資源の一員として、介護保険事業では満たせない地域のニーズに応えていくために、レスパイトを目的とした「家族介護者の集い」に取り組んだり、地域の「移送支援」体制づくりに関わり、関係機関や関係団体等と取り組みを進めた。また、戦後80年、廿日市高齢者ケアセンター開設30周年の節目として、被爆体験の継承も目的とした30周年記念誌を発行し、広く地域に働きかけることができた。

2026年度は臨時的に介護報酬の改定がされ、介護職員等処遇改善加算の拡充、生産性の向上等を通じた働きやすい職場環境づくり、基準費用額の改定など、昨今の賃金上昇や物価高騰及び生産性の向上等による経営実態や人材不足への早急な対応が予定されている。

2年度取り組んできた生産性向上に向けての取り組みを評価し、働きやすい職場環境づくりを更に進めるとともに、職員の働き甲斐や就労満足度を高めていき、職場の魅力を広く発信し、人材確保を強力に進めていく必要がある。職員の働き甲斐はご利用者のQOLの向上に起因することも多くある。自立支援・重度化防止・QOL向上に資する取り組みとなるよう、チームで評価・見直しを繰り返し行いながら取り組むことが魅力づくりにも繋がる。また、これらの取り組みを確実に進めていくためには、個別面談を軸として、部署目標の設定と浸透、職員間のコミュニケーションを活性化させ、既存の業務の見直しと質向上を図っていくことが不可欠であると考える。

利用者満足度と職員の働き甲斐(従業者満足度)は比例すると言われています。従業者満足度及び利用者満足度を高めていくためには、ご利用者・入居者のQOL向上に向けた取り組み及び職員の目標の管理と生産性向上の取り組みが不可欠です。

廿日市高齢者ケアセンター

2024年度～2026年度 重点課題

- I. 介護報酬改定を踏まえ適正かつ安定した事業運営
 - ・ 2024年度－介護報酬改定への適応及び収支の均衡
 - ・ 2025年度－各種加算の取得及び適正な事業運営
 - ・ 2026年度－2年間の取り組みの評価と臨時改定及び次期改定への対応
- II. 自立支援・重度化防止・QOL 向上
 - ・ 2024年度－自立支援・重度化防止・QOL 向上に資する取り組みの積極的導入と開発
 - ・ 2025年度－自立支援・重度化防止・QOL 向上に資する取り組みの充実
 - ・ 2026年度－2年間の取り組みの評価に基づく見直しと整理、更なる自立支援・重度化防止・QOL 向上に資する取り組み
- III. 人材育成・働き甲斐の充実
 - ・ 2024年度－個別面談の計画的実施、部署目標の明確化、職員間のコミュニケーションを活性化
 - ・ 2025年度－部署目標・個別課題に応じた育成計画を作成すると共に、既存の働き方にとられない体制の構築
 - ・ 2026年度－早急な人材確保及び改めて部署目標・個別課題に応じた育成計画の作成、働き甲斐(従業者満足度)の向上
- IV. 地域包括ケアシステム・地域共生社会の構築に向けた一翼を担う
 - ・ 2024年度－地域の社会資源としての役割を再認識し、各部の特性に応じた取り組みに着手する
 - ・ 2025年度－前年度までの取り組みを評価し、役割の再確認と部署間の協力・多機関との連携による取り組みに発展させ、社会資源としての存在価値を高めるための充実を目指す
 - ・ 2026年度－2年間の取り組みの評価に基づく見直しと整理、家族支援の視点も重視
- V. 被爆体験の継承
 - ・ 2024年度－今後の実現可能なより良い取り組みについて協議する
 - ・ 2025年度－単独ではなく、清鈴園や地域の取り組みと共同での取り組みをすすめる(戦後 80 年)
 - ・ 2026年度－2年間の取り組みの評価に基づく見直しと整理